

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄返還交渉資料第2巻

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): 嘉手納基地, 事故, 抗議運動, 沖縄基地特別問題特別委員会, 米軍演習区域, 漁業問題, 松岡主席, バーク対象, 在外米軍基地問題, 米上院報告書 キーワード (En): B-52 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43586">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43586</a>

軍事建設計畫

陸軍部

第一師

1

神親米軍國傳

基地をめぐり



11

(回覧番号 3022) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示	※ 総第	号
平文	略 平	31811	
	※ 第 1467号	※ 昭和	年 月 日 時 分 発
	大至急 至急 普通 LTP	※ 発電係	★

大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房 長	主管 アメリカ局長 参事官 北米課長	主管局部課 (室) 名 北米 起案 昭和 47年 2月 17日 起案者 吉川 電話番号 445
--	-----------------------------	--

協議先  
安全保障課長

在 米 下 院 大 使 臨時代理大使  
総領事 代理 大臣 務 権 在 代 理

電 在 大 使 臨時代理大使  
報 在 総領事 代理 代 理

件名 下院支出委 69年度軍事建設計画に用いた  
聴聞会議事録

16日公表された米下院支出委 69年度  
軍事建設計画に關する秘密聴聞會議  
事録に於て、沖縄に用いた嘉手納空  
軍基地と戦術ミサイル部隊と戦術爆  
撃機の支援基地と説明し、また同基地の

漢

17-116

(※印欄内は電信課記入)

(昭和四二・七一改正)

GB-1

滑走路、防盾補強等に20億ドルの  
支出権限と要請した旨傳之し。此の  
ことより推論し、<sup>17日付/部外利紙</sup>部外利紙に  
「B52、沖縄常駐化か」と報じ、また  
本17日の官房長官記者会見に於ては  
質問に於て「越えておるが、長官は常駐化  
云々のことは、米側の態度の否定的  
説明に信用し、このことは予想され  
たいと応酬した。由につき、本件議事  
録との関連に於て今後問題化するに  
考へられ、尚参考までに右議事  
録の関係部分<sup>(要旨)</sup>を添付して送致する。

GB-3

外務省



# 米の約束を信じる

沖繩B2基地の恒久化説 木村官房長官語る

木村官房長官は十七日午の記者会見で「政府は沖繩の選定地を恒久化する証拠はない」との発言で、米政府は沖繩の選定地を恒久化する証拠はないと述べた。米政府は沖繩の選定地を恒久化する証拠はないと述べた。米政府は沖繩の選定地を恒久化する証拠はないと述べた。

米政府は沖繩の選定地を恒久化する証拠はないと述べた。米政府は沖繩の選定地を恒久化する証拠はないと述べた。米政府は沖繩の選定地を恒久化する証拠はないと述べた。

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

特電 2P  
加山 1P 2P  
42.7.18

大政事外外官 務務 房 次次 配管官審審長	総番号(TA) 27603 68年 7月 17日 18時 50分 ワレントン 発着 米北 68年 7月 18日 07時 55分 本省 着	主管
備人会營計	外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理	
文電厚給 領参旅移 長 備注	下院歳出委における69年度軍事建設計画に関するちよう 開会議事録	
國資 長 開折	第2182号 平 至急	
ア 北東 長 中西	貴電米北第1467号に関し	
米 参 中 参 中 長 北 参 南 歐 参 英	17日公表された議事録によれば、本件カテナ基地に關する審議會は太平洋における米空軍軍事施設建設に関する予算要請の一かんとして5月22日空軍省土木部長ゴツダール少将、向部計画課長フエンロン大佐を証言者として行なわれた。カテナ基地に関する説明振りの要旨次の通り。	
長 西 東 参 ア ア 長	とりあえず(議事録空送)。	
經 次 商 團 米 ア 二 カ 歐 參 調 統 近 長 總 團 一 通 ス	カテナ基地は太平洋空軍の下にある戦術戦闘機隊(A TACTICAL FIGHTER WING)、 <del>10</del> 戦術航空2中隊(TWO AIR COMMANDO COMP OSITE SQUADRONS)、戦術ていさつ隊(A TACTICAL RECONNAISSANCE SQUADRON)、戦術ミサイル隊(TACTICAL MISSILE GROUP)及び戦術空軍司令部下にある爆撃飛行隊(A BOMBARDMENT SQUADRON)、予備戦術戦闘機隊(RESERVE TACTICAL AIR SUPPORT SQUADRONS)、予備戦術戦闘機隊(A ROTATIONAL TACTICAL FIGHTER SQUADRON)を支援している。予算要請は7項目(かつ走路の補強、ねん料補給施設の改善、ラプコン・センターのかく張、高度飛行訓練施設の拡張、自動車修理場の建設、そうこの建設、学校施設の拡張)あり、総額204万ドルである。	
長 經 賠 協 政 技 賠 長 團 賠 經		
条 参 協 長 条 規		
團 参 軍 社 壇 長 政 經 科		
情 参 内 長 道 外		
文 文 長 一 二		

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

REFUELING SQUADRON)、戦術航空支援隊2中隊(TWO TACTICAL AIR SUPPORT SQUADRONS)、予備戦術戦闘機隊(A ROTATIONAL TACTICAL FIGHTER SQUADRON)を支援している。予算要請は7項目(かつ走路の補強、ねん料補給施設の改善、ラプコン・センターのかく張、高度飛行訓練施設の拡張、自動車修理場の建設、そうこの建設、学校施設の拡張)あり、総額204万ドルである。

(3)

— 2 —

外務省





（回覧番号 3022） 外務省電信案 （分類）

機密表示（極秘・秘の未印） 符号表示 略 総第 32001 号

第 1477 号 ※昭和 年 月 日 時 分 発

43- 7-18 19-44

大至急 普通・LTF 発電係

大 臣  
政 務 次 官  
事 務 次 官  
外 務 審 議 官  
外 務 審 議 官  
官 房 長

主 管  
アメリカ局長  
参事官  
北米課長

主 管 局 部 課 (室) 名  
米 北  
起 案 昭 和 43 年 7 月 18 日  
起 案 者 吉川 電 話 番 号 445

協議先

安全保障課  
（7-2-23）

大 臣 臨時代理大使  
在 米 下 田 総領事 代理 大臣 発 推 名

電 報 在 大 使 臨時代理大使 代理 総領事 代 理 代 理 代 理

件名 69年度軍事建設計画に用いた  
聴取会議事録

往電米1467号米外電米2182号に附し、  
18日當地7月17日の聴取会議事録を、  
17日ワシントン発時米外電米1467号に附し、  
米側軍事専門家から、嘉手納基地とB52の恒久基  
地化し、12月21日白川からの日本側  
の見解について「日本側の要取り方は正しい

18 104 漢 写 済

と思ふ。米空軍は嘉手納基地とB529  
程東方面に在り、基地と12月21日  
同基地はかなり恒久的な性格を有する  
と語つた旨報に、12月21日、官房長官  
より、右報道につき明19日の記者会見  
において質問に対し、予想を述べ、  
詳細承知した旨要請した。  
7月21日、本件に用いた米側用信当局  
より確認を得た結果、米側用信  
あり、  
2、米側、米側用信と12月、基地が米側以上  
航空機の出入が容易なため、補修  
計画が当然であり、また本件軍事建設計  
画は昨年決定したものと、今日公表された  
過せぬものは見えない。昨今の本報紙

米側の要取り方は正しい



加山 初 印  
 物 建 2  
 43.7.19

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外官 務房 次次 臣官官審審長	電 信 写 番 号 (T-A) 68 年 7 月 18 日 16 時 00 分 68 年 7 月 19 日 08 時 05 分	主 管 本 省 着 米 北
備人会當計 總文電厚給 領參旅移 長 領往 長 關析 長 關析 長 中西 長 參 參 長 北 密 南 長 西 東 長 近 ア 長 近 長 國 米 長 參 調 長 一 通 ス 長 參 經 賠 償 長 協 政 技 賠 償 長 國 經 長 參 協 長 條 規 長 國 參 軍 社 專 長 政 經 科 長 備 參 保 長 道 外 長 文 文 長 一 三	外 務 大 臣 殿 下 田 大 使 臨時代理大使 總領事 代理	69年度軍事建設計画および閣會議事録
	第2198号 略 大至危	
	貴電米北第1477号に關し	
	18日スナイダー日本部長は木内に対し、次の通り述べた。	
	本件支出は金額がきん少なことからおわかりのように定期的補修を意図したもので、その結果若干の能率改善が図られようが、いわゆるカテナの拡張工事ではなく、現段階において向基地をこうきゆう化せしめんとの新事態が生れ出たわけではない。2・04百万ドルの内訳をみても小学校関係費が相当部分を占めていることから本件支出は補修的なものであることは明らかである。従つて本件支出をもつてオキナワにB-52を常駐化しようとする意図があるとみるべきではなく、オキナワの返かん問題、向基地の態様との関連で論ずる必要はなく、これら問題とは無関係なものである。(なお、往電第2199号参照ありたい。)	
	(厚頭貴電の米領軍事専門家の意見は個人的見解と御判断いただきたく、現段階においては、当局の政策との関連においてとりあげられる必要はないものと思料される。)	

外 務 省

83.210

極 秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大政事外外官 務房 次次 臣官官審審長	電 信 写 番 号 (T-A) 68 年 7 月 18 日 19 時 20 分 68 年 7 月 19 日 08 時 35 分	主 管 本 省 着 米 北
備人会當計 總文電厚給 領參旅移 長 領往 長 關析 長 北 東 長 中 西 長 參 保 中 參 長 北 密 南 長 歐 參 英 長 西 東 長 近 ア 長 近 長 國 米 長 參 調 長 一 通 ス 長 參 經 賠 償 長 協 政 技 賠 償 長 國 經 長 參 協 長 條 規 長 國 參 軍 社 專 長 政 經 科 長 備 參 保 長 道 外 長 文 文 長 一 三	外 務 大 臣 殿 下 田 大 使 臨時代理大使 總領事 代理	69年度軍事建設計画に關するちよう閣會議事録
	第2199号 極秘 大至危	
	貴電米北第1477号に關し	
	18日ドイツがヒルバート空軍次官補代理(渉外事項担当、施設部門出身)をたづね、本件につき質したところ、個人的意見も入るがと前置きしながら要旨次のとおり内話した趣。	
	1. 本件議事録を素直に見る限り特別な変化は見当らないし、自分の知る限り従来の基地を維持するに必要な経費を計上したのみで、増加、減少とも大きな計画の変更はない。	
	2. さらに個々の具体的問題について質したのに対し、(1) (日本の自衛隊は施設に対する長期的計画を持つているが、米軍もそうではないか) / 0年間にわたる統合長期計画はあるが、それぞれの基地について詳細に述べてはいない。個々の基地について2-3年の見直しは持っている。しかしこのことは必ずしも基地を長期にわたり維持することを意味しない。	
	(2) (かつ走路の補修、そうこの改ちく、小学校の教し	

外 務 省





45

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

地 使用に関して日米間の特別な合意を行なう可能性を研究中  
 であるというのである。

10  
 /  
 6  
 6  
 5

(3)

-2-

5  
 /  
 5